

単元について

○ 単元観

本単元は、小学校学習指導要領国語第5学年及び第6学年、「C読むこと」の指導事項(1)「エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。」の内容を受けて設定したものである。本単元では、学習指導要領の「C読むこと」の言語活動例(2)「エ 本を読んで推薦の文章を書く言語活動」を基に、教材文「海のいのち」などの物語を読み、物語が自分に最も強く語りかけてきたことを短い言葉のキャッチコピーで表し、ポスターにまとめる言語活動を位置付ける。ここで取り上げるキャッチコピーは、自ら感じ取った物語の感動や魅力を「物語のメッセージ」として短い言葉でまとめたものである。物語のメッセージを考えていく中で、登場人物の心情や場面描写をとらえ、優れた叙述に着目し自分の考えをまとめながら読むことをねらいとしている。

教材文である「海のいのち」は、海に生まれた主人公太一が、父や与吉じいさの死を乗り越え、村一番の漁師に成長する姿を描いたものである。壮大な海という自然の中で、たくましく成長する太一の姿を通して、自然への畏敬の念と「いのち」のつながりの豊かさ、尊さを考えさせられる作品である。また本作品は、自然と共に生きてきた父や与吉じいさの生き方に触れ、自然と共にたくましく生きる太一の姿が、真摯に自然と向き合い、自然の恵みに感謝する心を忘れない、人間本来の生き方であることに気付かせてくれる。

物語の構成は、冒頭から山場、結末までが分かりやすく、物語の基本構造にのっとった典型的な型である。また、直接的に心情を描写した叙述は少なく、会話文や動作の描写、情景描写などを基に心情を読んでいく必要がある。しかたがって、会話文、情景描写の比較や比喩表現、色を表す言葉など学習した読みの力を活用しながら、自分に最も強く語りかけてくること(作品の主題)を考えさせるのに適している。

○ 児童観

1学期「人物と人物との関係を考えよう 『風切るつばさ』」の単元では、人物の関係を手がかりにして心情を読み取る学習を行った。単元の導入時に、本文を通読して感じた疑問や不思議に思った「問い」を設定し解決していく中で、場面ごとに人物の関係が変化していることを考えながら読み進めることができた。また、物語の叙述に着目し、そこから考えられることを表現できるようになってきている。しかし、互いが感じたことを交流して、自分の考えを広げたり深めたりすることに課題が見られる。

本学級の児童は、今年度の全国学力・学習状況調査において、登場人物の心情について、情景描写を基にとらえることができるかどうかの問題(A⁴)の平均正答率は86.7%(県平均75.4%)であった。このことから、情景描写に着目し、複数の叙述と関係付け、暗示的に表現されている登場人物の心情をとらえて読む力は定着している。しかし、目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む問題(B³二)の平均正答率は60.0%(県平均60.5%)であった。目的を明確にした上で、全体の構成を把握しながら読み、必要な叙述を選び、他の叙述と比べたり、自分の知識や考えなどと関係付けたりしながら自分の考えをまとめていく力を本単元で付けていくことが必要である。

○ 指導観

課題の設定では、単元名とリード文から人物の生き方をもとに、自分の生き方について考えを深めるという学習の見通しをもたせる。教師による範読を聞き、物語が自分に最も強く語りかけてくることを短い言葉のキャッチコピーで表現した「作品のメッセージ」と解説する文章を書かせる。児童一人一人の感じ方や生活経験の重ね合わせ方でメッセージや理由、着目した叙述などもそれぞれ違ってくる。自分の考えとの違いを生じさせ、友達なぜそのような考えをもったのか興味を抱かせることで、交流する必要性をもたせたい。また、学習の見通しを立てる際には、これまでに学習した物語の読み方を想起させ、人物と人物との関係、物語の山場で起きる大きな変化、表現の工夫、行動や心情に対しての「問い」などに気を付けて読むことを確認しながら、学習計画を立てさせる。

情報の収集の過程においては、中心人物「太一」の「時」の移り変わりにより9場面で構成されていることを「時・場・人物」に関わる言葉を根拠にしながら、全体の場面の移り変わりをとらえさせる。さらに、各場面を一文で書き表し、あらすじをまとめる活動を行うことで、出来事の流れを大きくとらえさせる。整理・分析Ⅰの過程において、これまでの学習を「物語の流れ」として1枚の用紙にまとめさせることを通して、物語の全体構成を把握させる。

物語の全体構成を把握した後に、物語の詳細な読みを深めるために、課題の設定Ⅱを位置付ける。自分に最も強く語りかけてくること（作品の主題）を深く考えさせるために、「太一」の行動や会話、情景描写などから疑問や不思議に思ったことを「問い」としてもたせる。山場において、「何が、どのように、どうして変わったのか」ということを考えるための物語の重要な「問い」を読み解くことが、「作品のメッセージ」を考えることにつながる。この物語の重要な「問い」は、「何故、太一は瀬の主を殺さなかったのか。」とする。この重要な「問い」に向けて、学級で考えたい「問い」を児童自ら設定していく中で、友達と考えを交流し、自分の考えを広げたり深めたりする主体的な学びを促していきたい。「問い」について考える際には、最も心がひかれた一文の理由を、人物の具体的な行動や言葉など、根拠となる叙述を取り上げて、その理由を説明できるようにしていきたい。互いに考えを交流し合うことを通して、友達の考え方の違いや面白さに気付いたり、他者に伝えることの楽しさや喜びを感じたりさせたい。また、気になるところを読み返し、他の部分に書かれている叙述とも関係付け、取り上げた人物の生き方について理解を深めるとともに、自分の考えも深めながらまとめることができるようにしていきたい。

さらに、「いのち」の物語のメッセージをとらえるため、「海のいのち」と同じ著者立松和平の「いのち」シリーズの物語を学校図書館や公共図書館と連携して複数用意する。「いのち」シリーズの物語を並行読書する中で、本単元での学習を生かしながら読んだり、「海のいのち」などの物語と比較しながら読んだりさせることで、物語を読み深める楽しさを味わわせたい。

単元の目標及び内容について

- 物語が最も自分に強く語りかけてきたことを考えながら読んだり、自分の考えを友達に伝え合ったりしようとする。 【関心・意欲・態度】
- 登場人物の心情や場面の描写についてとらえ、物語が自分に最も強く語りかけてきたことを考えながら読むことができる。 【読むこと エ】
- 大事な言葉や表現の工夫などに気付き、物語が最も強く語りかけてきたことを考える手がかりにして読むことができる。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ（ケ）】

単元の評価規準

| 国語への 関心・意欲・態度 | 読む能力 | 言語についての 知識・理解・技能 |
|---|--|---|
| 【言語活動】 「海のいのち」を読み、物語が自分に最も強く語りかけてきたことを短い言葉のキャッチコピーで表現し、ポスターにまとめる。 | | |
| 物語が最も自分に強く語りかけてきたことを考えながら読んだり、自分の考えを友達に伝え合ったりしようとしている。 | 登場人物の心情や場面についての描写についてとらえ、物語が自分に最も強く語りかけてきたことを考えながら読んでいる。 | 大事な言葉や表現の工夫などに気付き、物語が最も強く語りかけてきたことを考える手がかりにして読んでいる。 |

単元で育成したい資質・能力

| | A | B |
|--------|--|---|
| 【主体性】 | ・「いのち」の各物語が最も強く語りかけてきたことを比較しながら読んだり、「いのち」の物語のメッセージに対する自分の考えを伝え合ったりしようとしている。 | ・物語が最も強く語りかけてきたことを考えながら読んだり、自分の考えを友達と伝え合ったりしようとしている。 |
| 【思考力】 | ・登場人物の相互関係や心情、場面の描写、登場人物の役割など複数の事柄を関連付けながら、中心となる登場人物の心情の変化を考えている。 ・物語が自分に最も強く語りかけてきたことについて、叙述や生活経験など根拠にして考えている。 | ・登場人物の相互関係や心情、場面の描写を関連付けながら、中心となる登場人物の心情の変化を考えている。 ・物語が自分に最も強く語りかけてきたことについて、叙述などを根拠にして考えている。 |
| 【自己理解】 | ・「いのち」の物語を読み比べる面白さや深さを感じるとともに、物語からのメッセージを読み取る力の高まりや奥深さに気付いている。 | ・「いのち」の物語を読み比べる楽しさや面白さ、物語からのメッセージを読み取る力の高まりに気付いている。 |

指導と評価の計画

全 13 時間

| 次 | 時 | 学習内容 | 評 価 | | | | |
|---|---|---|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 関 | 読 | 言 | 評価規準 | 評価方法 |
| 一 | 1 | 課題の設定 I (2) ○教材文「海のいのち」と出会い、初読の感想をもつ。 ・教師による範読を聞き、「初読の『作品のメッセージ』」(物語が自分に強く語りかけてくること)を短い言葉のキャッチコピーで表現し、その理由を書く。 ・物語から受け取るメッセージの違いや面白さに気付き、物語が自分に最も強く語りかけていることをキャッチコピーで交流することを単元のゴールとして設定し、単元で付けたい力について考える。 | ○ | | | ・物語が自分に最も強く語りかけてくることを短い言葉でまとめ、交流することに主体的に取り組もうとしている。 | ノート 発言 行動観察 |
| | 2 | ○物語を読む時の方法を確かめ、学習の見通しを立てる。 ・これまでに学習した物語の読み方を想起し、読む時に気を付けることを確認する。 (人物と人物との関係、物語の山場で起きる大きな変化、表現の工夫、行動や心情に対しての「問い」など) ・ゴールの見通しをもち、学習計画を立てる。 ・物語の大まかな流れをつかみ、基本4場面(始まりの場面、出来事の展開場面、山場、終わりの場面)について読む。 | ○ | | | ・これまでに学習した物語の読み方を想起し、単元で付けたい力について考えようとしている。 | ノート 行動観察 |

| 次 | 時 | 学習内容 | 評価 | | | | |
|---|---|--|----|---|---|--|-------------------|
| | | | 関 | 読 | 言 | 評価方法 | |
| 二 | 3 | 情報の収集（２） ○教材文「海のいのち」の出来事の流れを大きくとらえる。 ・中心人物「太一」の「時」の移り変わりにより9場面で構成され、物語は太一の生涯の物語であることをとらえる。 ・各場面を一文で書き表し、あらすじをまとめる。 | | | ○ | ・物語の構成をとらえ、出来事の流れを考えながら読み、各場面を一文で書き表している。 | ノート 発言 行動観察 |
| | 4 | ○始まりの場面を中心に設定をまとめる。 ・基本4場面を再確認する。 ・始まりの場面の「時」、「場」、「人物（状況）」の設定をまとめる。 「時」…（太一の生涯）幼い太一 「場」…海「父も、その父も、その先ずっと顔も知らない父親たちが住んでいた海」 「人物」…父（村一番のもぐり漁師、「海のめぐみだからなあ」 太一（父へのあこがれ、「おとうといっしょに海に出る」） | | | ○ | ・物語の設定や登場人物の相互関係などについて、出来事を整理して読んでいる。 | ノート 発言 行動観察 |
| | 5 | 整理・分析Ⅰ（１） ○これまでの学習を「物語の流れ」としてまとめる。 ・ノートをもとに、「場面構成」「あらすじ」「設定」などをまとめる。 | | | ○ | ・物語の構成をとらえ、登場人物の相互関係や出来事の流れなどを整理してまとめている。 | ワークシート 行動観察 |
| | 6 | 課題の設定Ⅱ（１） ○教材文「海のいのち」の「問い」を設定する。 ・山場で「何が、どのように、どうして変わった」ということを考えるための物語の重要な「問い」を設定する。 ・重要な「問い」に向けて、学級で考えたい「問い」を設定する。【本時】 | | | ○ | ・「問い」を作るために、登場人物の相互関係や心情、場面の描写を関連付けながら読んでいく。 | ノート 発言 行動観察 |
| | 7 | 整理・分析Ⅱ（３） ○重要な「問い」に向けて、学級で考えたい「問い」について考える。 ・太一が、中学校を卒業する年の夏、無理やり与吉じいさの弟子になった理由について考える。 ・「海に帰りましたか」と、与吉じいさに両手を合わせる太一の思いについて考える。 | | | ○ | ・人物と人物との関係や表現の工夫などを手がかりに、太一の心情を想像しながら読んでいく。 | ノート 発言 行動観察 |
| | 8 | ○重要な「問い」に向けて、学級で考えたい「問い」について考える。 ・とうとう父の海にやってきた太一の思いについて考える。 ・太一が背負おうとした母の悲しみとは何かについて考える。 | | | ○ | ・比喩や擬態語・擬音語、色彩語などの表現の工夫に気付き、考える手がかりにしている。 | ノート 発言 行動観察 |
| | 9 | ○重要な「問い」について考える。 ・太一はなぜ、瀬の主を殺さなかったのか、考えを交流することを通して太一の心情の変化をとらえる。 | | | ○ | ・人物と人物との関係や表現の工夫などを手がかりに、太一の心情の変化をとらえている。 | ノート 発言 行動観察 |

立松和の「いのちシリーズ」の並行読書

| 次 | 時 | 学習内容 | 評価 | | | | |
|---|---------------|---|----|---|---|--|----------------------|
| | | | 関 | 読 | 言 | 評価規準 | 評価方法 |
| 三 | 10 ・ 11 | まとめ・創造・表現（3） ○教材文「海のいのち」が自分に最も強く語りかけてきたことをキャッチコピーで表現し、ポスターにまとめる。 ・「作品のメッセージ」（物語が自分に最も強く語りかけてくること）をキャッチコピーで表現し、解説する文章を書く。 | | ○ | | ・物語が自分に最も強く語りかけてきたことを短い言葉でポスターに表現するために、自分の考えをまとめている。 | ポスター 行動観察 |
| | 12 | ○ポスターを交流したり、「いのちシリーズ」の物語を読み比べたりする。 ・友達のキャッチコピーやその理由を聞き、友達の考え方の違いや面白さなどを交流する。 ・「いのちシリーズ」の絵本を読み比べ、感想や物語のメッセージを交流し合う。 | | ○ | | ・物語が自分に最も強く語りかけてきたことを友達と伝え合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。 | 発言 行動観察 ワークシート |
| | 13 | 振り返り（1） 学びのモニタリング ○自らの学びや学び方を振り返る。 ・単元の初めに立てた「ゴールの見通し」の視点でノートや物語を基に自らの学びを振り返る。 | | ○ | | ・自分のものの見方や考え方の変容や自らの学びや学び方を振り返ろうとしている。 | 発言 行動観察 ワークシート |

立松和平の「いのちシリーズ」の並行読書

本時の学習

（1）本時の目標

- 物語の重要な「問い」や学級で考えたい「問い」を作るために、登場人物の相互関係や心情、場面の描写を関連付けながら読むことができる。

（2）本時の評価規準

- 物語の重要な「問い」や学級で考えたい「問い」を作るために、登場人物の相互関係や心情、場面の描写を関連付けながら読んでいる。 【読む能力】

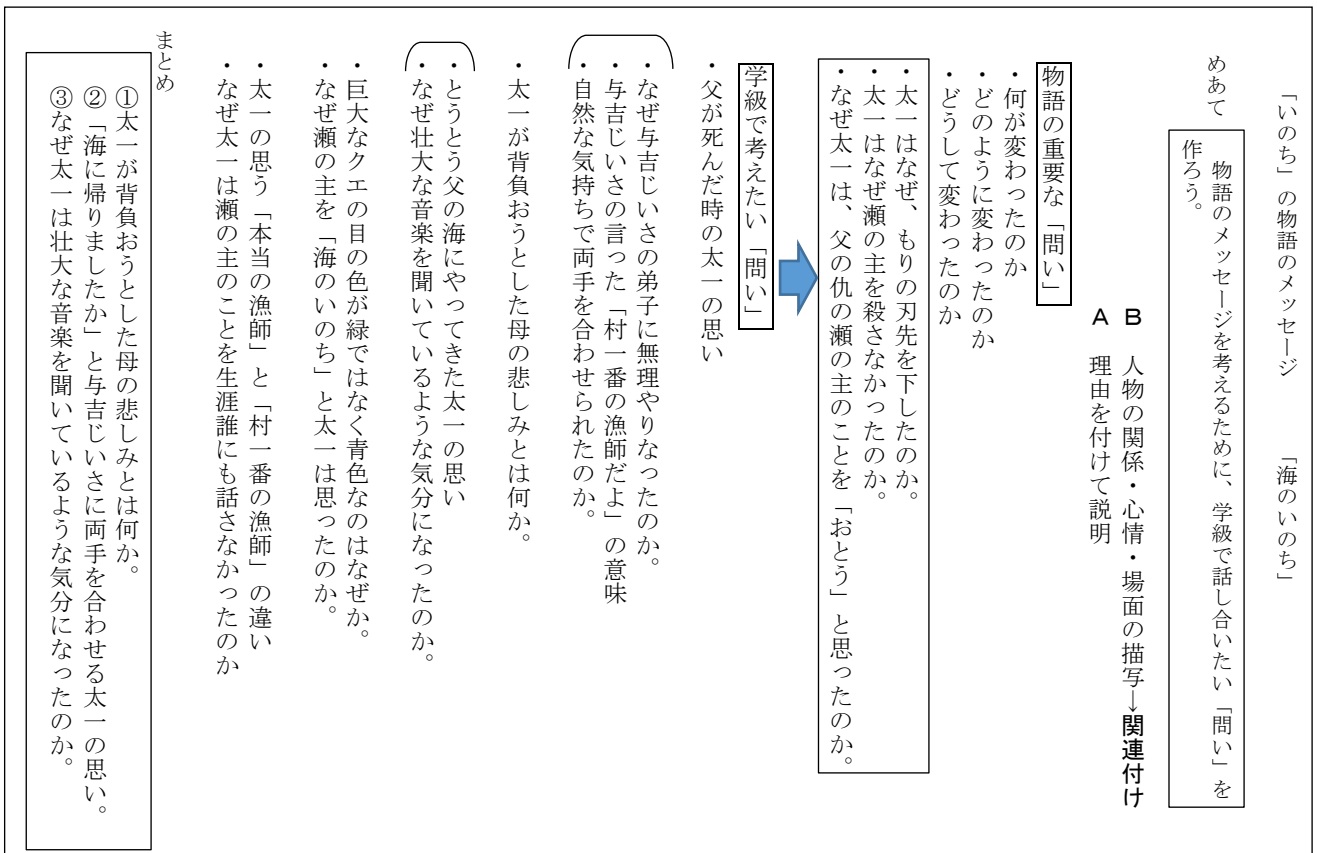
（3）本時の学習展開（6時間目／全13時間）

| 学習活動 ○主な発問 ・予想される児童の反応 □思考の場の工夫 | ◇指導上の留意事項 ★めざす児童の姿 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て | 評価規準【観点】 (評価方法) ◎本時で付けたい力 |
|--|---|---------------------------------|
| 1 本時の学習課題を確認する。 | ◇前時までにまとめた「物語の流れ」を想起し、学級全体で考えたい「問い」を設定することを確認する。 | |
| めあて 物語のメッセージを考えるために、学級で話し合いたい「問い」を作ろう。 | | |
| 本時のゴールの見通し A：登場人物の相互関係や心情、場面の描写、人物の役割など複数の事柄を関連付けて、根拠を明確にしなが「問い」を作っている。 B：登場人物の相互関係や心情、場面の描写を関連付けながら「問い」を作っている。 | | |

| <p>学習活動</p> <p>○主な発問</p> <p>・予想される児童の反応</p> <p>□思考の場の工夫</p> | <p>◇指導上の留意事項</p> <p>★めざす児童の姿</p> <p>◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て</p> | <p>評価規準【観点】</p> <p>(評価方法)</p> <p>◎本時で付けたい力</p> |
|--|---|--|
| <p>2 物語の重要な「問い」を設定する。</p> <p>○物語のメッセージを考えるために、物語の重要な「問い」を決めましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太一はなぜ、もりの刃先を下したのか。 ・太一はなぜ瀬の主を殺さなかったのか。 ・なぜ太一は、父の仇の瀬の主のことを「おとう」と思ったのか。 <p>3 学級で考えたい「問い」を設定する。</p> <p>○物語の重要な「問い」に向けて、場面ごとに「問い」を考えましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>□思考の場の工夫 関連付ける</p> <p>登場人物の相互関係や心情、場面の描写を関連付けながら「問い」を考える。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・父が死んだ時の太一の思い ・なぜ太一は与吉じいさの弟子に無理やりなったのか。 ・与吉じいさの言った「村一番の漁師だよ」の意味 ・なぜ太一は与吉じいさの死で、自然な気持ちで両手を合わせられたのか。 ・太一が背負おうとした母の悲しみとは何か。 ・とうとう父の海にやってきた太一の思い ・なぜ太一は壮大な音楽を聞いているような気分になったのか。 ・巨大なクエの目の色が緑ではなく青色なのはなぜか。 ・なぜ瀬の主を「海のいのち」と太一は思ったのか。 ・太一の思う「本当の漁師」と「村一番の漁師」の違い ・なぜ太一は瀬の主のことを生涯誰にも話さなかったのか ・太一の母がおだやかで満ち足りた美しいおばあさんになれた理由 <p>4 全体で話し合う。</p> <p>○物語の重要な「問い」に向けて、学級で考えたい「問い」を話し合しましょう。</p> | <p>◇中心人物の変容を読み取る際には、「何が、どのように、どうして変わったのか」を考えることが大切であったことを想起させながら、重要な問いを考えさせる。</p> <p>◇物語の重要な「問い」は、山場で起きる大きな変化であることを確認する。</p> <p>◇事前に考えている場面ごとの「問い」を基に、学級で考えたい「問い」について話し合うように指示する。</p> <p>◆「問い」を作るのが難しい児童には、「なぜ、太一は～」という書き出しで問いを作るように指示する。</p> <p>◇個人で「問い」を考えた後、班でそれぞれの「問い」を紹介させ、出てきた「問い」について検討させる。</p> <p>◇班で「問い」を検討する時には、人物の相互関係や心情、人物の役割などを考えるように指示する。</p> <p>◇班で交流した「問い」の中で、学級で最も考えたい「問い」を1つ選び短冊に書かせる。</p> <p>◇物語の重要な「問い」を意識しながら、学級で考えたい「問い」について根拠を示しながら発言させる。</p> <p>◇多様な考えが引き出されるような「問い」を学級で考えたい「問い」にするように意識させる。</p> <p>◇叙述にもこだわりながら、学級で考えたい「問い」を話し合わせる。</p> | <p>◎物語の重要な「問い」や学級で考えたい「問い」を作るために、登場人物の相互関係や心情、場面の描写を関連付けながら読んでいく。「読む能力」(行動観察・発言・ノート)</p> |

| | | |
|--|--|--|
| <p>学習活動 ○主な発問 ・予想される児童の反応 □思考の場の工夫</p> | <p>◇指導上の留意事項 ★めざす児童の姿 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て</p> | <p>評価規準【観点】 (評価方法) ◎本時で付けたい力</p> |
| <p>5 本時の学習のまとめをする。</p> | <p>◇出てきた多くの学級で考えたい「問い」の中から、3つ程度順位付けを行い本時のまとめとする。</p> | |
| <p>★めざす児童の姿 (学級で考えたい「問い」を選び、その理由を登場人物の相互関係や心情、場面の描写を関連付けながら考えていけばよい。)</p> <p>①太一が背負おうとした母の悲しみとは何か。 ②「海に帰りましたか」と与吉じいさに両手を合わせる太一の思い。 ③なぜ太一は壮大な音楽を聞いているような気分になったのか。</p> <p><選んだ理由> ①は、太一にとってただ一人の家族である母との関係について考えたい。 ②は、太一にとってとても大切な存在である与吉じいさとの関係から話し合いたい。 ③の情景描写から、とうとう父の海にやってきた太一の心情をみんなで考えたい。</p> | | |
| <p>◇次時から、本時で設定した重要な「問い」に向けて、学級で考えたい「問い」を考えることを確認する。</p> | | |

(4) 板書計画



学びのモニタリング 「いのち」の物語のメッセージ 「海のいのち」

六年組

- 5 とてもよくできた
4 できた
3 できた
2 できなかった
1

主体性・・・行動する力

- ・語りかけてきたことを考えながら読む。
- ・自分の考えを友達に伝え合う。

思考力・・・考える力

- ・人物の相互関係や心情、場面の描写を関連付けながら考える。
- ・叙述などを理由付けながら考える。

<参考> 学びのモニタリング

- 自己理解・・・成長に気付く力
- ・物語を読み比べる楽しさや面白さに気付く。
 - ・物語からのメッセージを読み取る力の高まりに気付く。

学び方をふり返って

成長したこと

課題だと思ふこと
や次の目標

「いのち」を読んで...